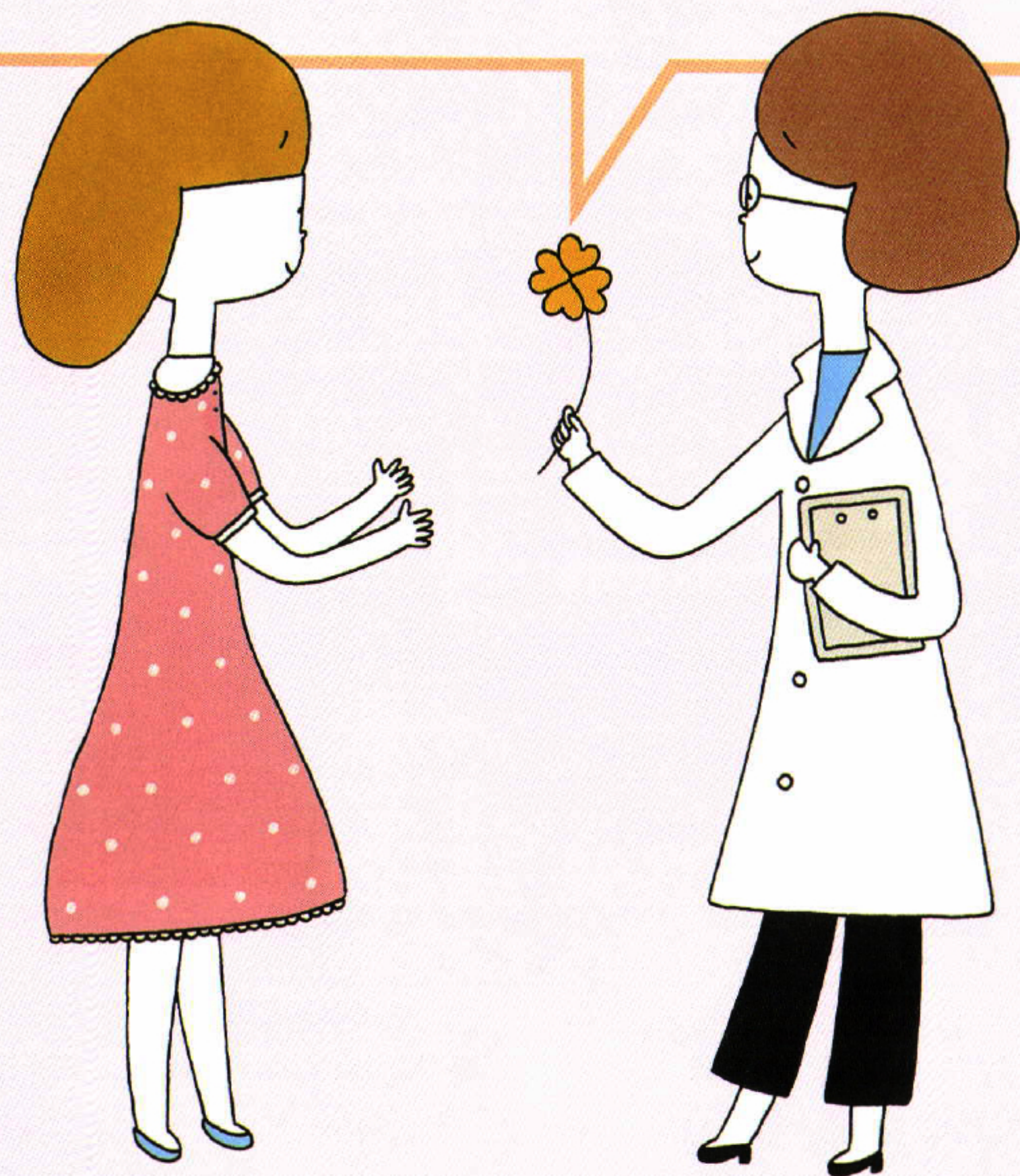


細胞診とHPV検査を 併用すれば、検査の精度は さらに向上します。



子宮頸がんの検査には「細胞診」と「HPV検査」があります。**この2つを組み合わせると、前がん病変(がんになる前の段階)の発見率が飛躍的に上がる**
ことが分かってきました。ここでは、それぞれ検査の特長をご紹介します。

細胞診は、変化した細胞を HPV検査は、HPVの感染の有無を 見つける検査です。

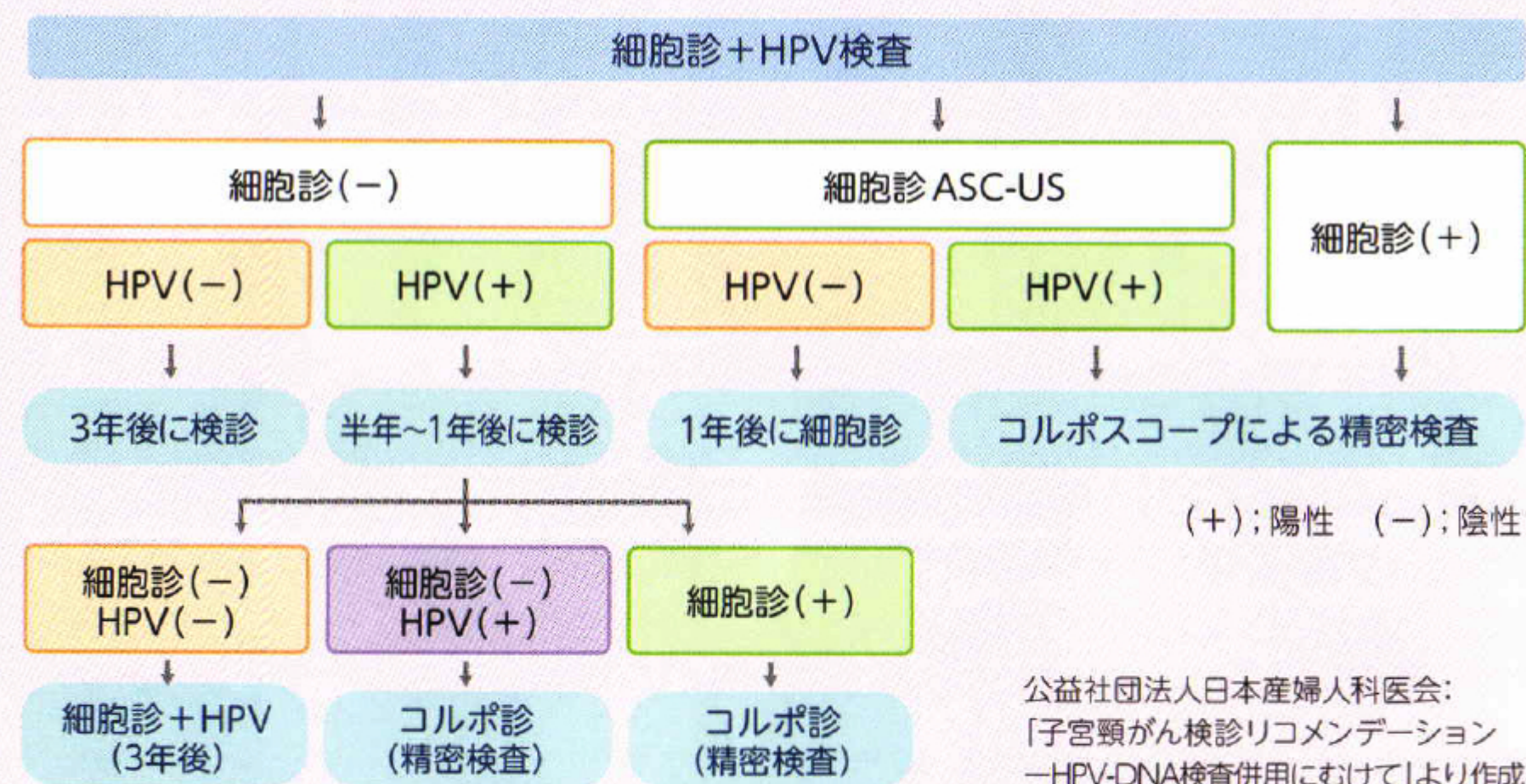
細胞診

一般に子宮頸がん検査(あるいは子宮がん検査)と呼ばれている検査が、この細胞診です。子宮頸部から採取した細胞の「形」を顕微鏡で調べます。がん細胞や異形成の細胞は、健康な細胞と形が異なるため、この方法でがんや前がん病変を発見することができます。

HPV検査

HPV検査は、細胞の中からHPVの遺伝子を検出する検査です。世界で最も使われているHPV検査の方法としては、ハイブリッドキャプチャー(HC2)法があります。欧米だけでなく日本でも、日本産婦人科医会より、30歳以上の子宮頸がん検診には細胞診とHPVの併用検査が推奨されています。細胞診で採取した細胞で同時に検査が可能なので、手軽に精度の高い検査を受けることができます。

併用検査の結果から、次の検査時期もわかります。



上の図は細胞診とHPV検査を併用したときの検査結果と、次回の検査時期をまとめたチャートです。細胞診(-)は陰性で異常なし、細胞診(+)は陽性で異常あり、ASC-USは細胞診の結果があいまいで判定ができないという意味です。たとえば細胞診(-)でHPV(-)の場合、次の検診の目安は3年後となります。